



今昔 歴史紀行 【戊辰戦争 編】

【第2回】 恭順か反抗か 一割れた越後各藩

作家 渡辺 れい

越後の11藩と主な飛地

幕末の越後には11の藩と会津・桑名・高崎・上ノ山・沼津の各藩の飛地と幕府領が点在していた。ところが鳥羽・伏見の戦いの後、新政府によって幕府追討令が出されると、旧幕府は領地の没収を想定し、先手を打って越後の幕府領（天領）を会津・米沢・高田・桑名の4藩に分け預けるという策にでた。その結果、魚沼郡は主に会津藩領に、岩船郡は主に米沢藩領に、出雲崎は桑名藩領に、川浦代官所支配地域は高田藩の預かり地となった。

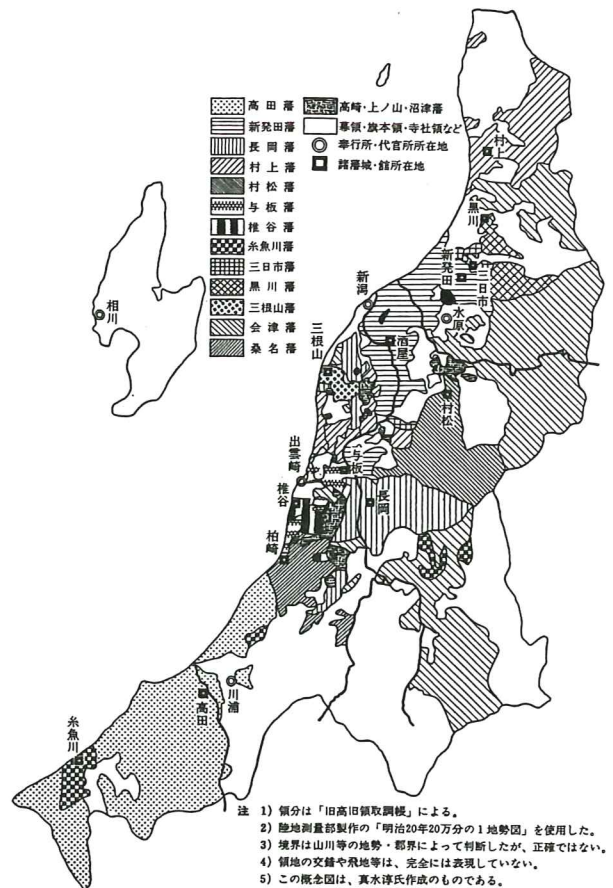
一方、越後の11藩は次の通りである。

- | | | |
|-------|-------|-----|
| ・高田藩 | 15万石 | 榊原家 |
| ・新発田藩 | 10万石 | 溝口家 |
| ・長岡藩 | 7万4千石 | 牧野家 |
| ・村上藩 | 5万90石 | 内藤家 |
| ・村松藩 | 3万石 | 堀家 |
| ・与板藩 | 2万石 | 井伊家 |
| ・糸魚川藩 | 1万石 | 松平家 |
| ・三根山藩 | 1万1千石 | 牧野家 |
| ・椎谷藩 | 1万石 | 堀家 |
| ・黒川藩 | 1万石 | 柳沢家 |
| ・三日市藩 | 1万石 | 柳沢家 |
- ちなみに主な飛地は、
- | | | |
|------|-----|-------------|
| ・桑名藩 | 6万石 | 柏崎・加茂など |
| ・会津藩 | 5万石 | 小出嶋・酒屋・津川など |

プロフィール

本名：渡邊 豊
昭和36年新潟市生まれ
新潟南高校 京都花園大学文学部史学科卒
平成18年 小説「峠」で新潟日報文学賞受賞
現在 北越銀行勤務

- ・高崎藩 2万4千石 一ノ木戸
- ・上ノ山藩 1万5千石 七日市
- ・沼津藩 1万石 五泉



越後における幕末期の領分概念図（「新潟県史 通史6 新政府軍の来攻」より）

・一橋御領 1万石 金谷

で、他に旗本領が2万4千石、幕府直轄領が17万600石、他藩への預け地が12万石となっていた（参考『元治元年越後土産』元治元年は1864年）。この内の幕府直轄領17万600石と預け地12万石が会津・桑名・米沢・高田の各藩に割り振られたということになる。

領民の困惑

この措置に対し幕府代官所の支配下にあった村々は強く反発した。例えば出雲崎代官所では村々の惣代たちが連盟で願書を提出し反対している。その内容を簡単に紹介すると、

- ①高田藩は譜代の家柄でありながら気概がなく体裁よく進退を伺うばかりで、領地を守る武備もない。何事にも加賀藩の指揮に従っている状態で、幕領の村々は信頼していない。
- ②桑名藩は既に本城を明け渡して降伏している。勅使下向となれば柏崎陣屋も明け渡すだろう。百里（約400km）も離れた領地を守ってくれるとは思えない。
- ③桑名・高田両藩は財政が逼迫しており、すぐに多額の調達金を取り立てるのは明らかである。

鎮撫総督府の移動

他に会津藩に対しても同様の趣旨の不安を述べている。このように複雑に入り組んだ領地の調整がまったくつかないまま、慶応4（1868）年3月15日、北陸道鎮撫総督府一行が高田に入った。総督の高倉永祐ながくらは新潟奉行と佐渡奉行に対し幕府領の出納を、諸藩領にも同様の帳簿を提出するよう命じたが、わずか4日後の19日には江戸へ向け進発してしまった。15日の予定だった江戸城総攻撃が、西郷隆盛・勝海舟の会談で回避され、その結果何らかの命令変更があったものと思われる。因みに江戸城は4月11日に無血開城している。

抗戦派の蠢動

予定より早く鎮撫総督府がいなくなったことで越後国内の混乱はますますひどくなった。

会津藩は小千谷陣屋に500人、酒屋陣屋に300人、新潟町にも300人の兵を出し新政府に対する敵対行動を強めた。

桑名藩は3月30日に藩主松平定敬さだあきが船で柏崎に入り（この船には河井継之助も乗っていたという）抗戦派の藩士が結集して反政府勢力の拠点となった。翌々月の閏4月3日には恭順派家老、吉村権左衛門が暗殺されている。

小さな波紋

旧幕府は將軍の慶喜が恭順してすでに蟄居謹慎していた。敵対したのはあくまで会津を中心とする奥羽列藩同盟で、このあたりの複雑さが旧幕府領の領民を混乱させ、結局、同盟軍は十分な軍費、兵力を確保できないまま鎮撫総督府の再攻を迎えることになる。また越後各藩も同盟側に味方するか、新政府に恭順するかで藩論は割れ、高田、長岡、新発田といった雄藩も未だ進退の定まらぬ状態にあった。そんなところへ、まるで1個の小石が池に波紋を作るような事件がおこる。古屋作左衛門、今井信郎といった筋金入りの人斬りが率いる旧幕歩兵第11、12連隊の脱走兵集団800人、いわゆる古屋隊（後に衝鋒隊）が、越後に入り恐喝まがいの資金調達を始めたのである。北越戦争は、この古屋隊の扱いをめぐる戦となってゆく。



越後11藩のひとつ高田城の三層櫓
この藩も大きく揺れることになる